

潜在危険性

火災・爆発

- ・ 引火性・可燃性物質。
- ・ 摩擦、熱、火花及び火災で発火するおそれがある。
- ・ フレアー燃焼効果により速やかに燃焼するものがある。
- ・ 粉末、粉塵、削りくず、きりくず、旋盤による削りくず、又は裁断くずは、爆発したり、爆発的な激しさで燃焼するおそれがある。
- ・ 溶融状態で輸送されることがある。
- ・ 消火後再び発火するおそれがある。

健康

- ・ 火災によって刺激性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- ・ 接触すると皮膚や眼に炎症を起こすおそれがある。
- ・ 溶融物に接触すると皮膚や眼に激しい火傷を起こすおそれがある。
- ・ 消火水が汚染を引き起こすおそれがある。

公共の安全

- ・ まず、送り状記載の応急措置照会先に電話する。送り状がない場合や応答がない場合、関連機関のデータベース等に照会する。
- ・ 直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- ・ 関係者以外は近づけない。
- ・ 風上に留まる。
- ・ 低地から離れる。

保護具

- ・ 空気呼吸器 (SCBA) を着用する。
- ・ 防火服は限られた防護をするに過ぎない。

避難

大量漏洩時

- ・ 風下に適切な避難距離をとる。

火災時

- ・ タンク、貨車あるいはタンク車が火災に巻き込まれた場合は、すべての方向に、適切な隔離距離と適切な初期避難距離をとる。

緊急時の措置

火災時

小火災

- ・ 粉末消火剤、二酸化炭素、砂、土、放水や一般の泡消火剤を使う。

大火災

- ・ 散水、水噴霧又は通常の泡消火剤を用いる。
- ・ 危険でなければ、容器を火災区域から移動する。

タンク火災あるいは車／トレーラーの積荷火災

- ・ 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- ・ 大火災の場合は無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する；これが不可能な場合にはその場所から避難し、燃焼させておく。
- ・ 安全弁から音が発生したり、タンクが変色したときは直ちに避難する。
- ・ 火災に巻き込まれたタンクから常に離れる。

漏洩時

- ・ すべての発火源を取り除く（近傍での喫煙、火花や火災の禁止）。
- ・ 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

少量の乾燥したもれ

- ・ 漏洩物は清浄なシャベルを用いて、清浄な乾燥した容器に入れ、ゆるく覆いをして漏洩場所から移す。

大量のもれ

- ・ 水で湿らせ、防護用いをして後で廃棄する。
- ・ 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

応急手当

- ・ 被災者を新鮮な空気のある場所に移す。
- ・ 救急車を呼ぶ。
- ・ 呼吸が停止している時は人工呼吸を行う。
- ・ 呼吸困難の時は酸素吸入を行う。
- ・ 汚染された衣服や靴を脱がせ、隔離する。
- ・ 漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低15 [20] 分間洗浄する。
- ・ 皮膚に付着した固化した溶融物を取り除くには医師の助けがある。
- ・ 被災者を温め、安静にする。
- ・ 医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。